NPO 法人岡崎がくどうの会　　2024 年 2 月 3 日 （土）
2023 年度学童保育ひろば in 春日井　レポート

“現状と次世代のための学童保育”

【クラブ】（　なかよしクラブ　）　　【名 前】（　　吉川　美里　　）

今年度は春日井市主催ということで、学童保育に対する理解がとても進んでいる地域という印象が強く、とても興味深かった。（公立 34，民営 18 もある。）

初めに　春日井市にある同じ NPO 法人内の、牛山子どもの家イルカクラブ、西部子どもの家イルカクラブ、玉川子どもの家イルカクラブという 3 つの学童保育所の様子を聞いた。NPO 法人でも名前に子どもの家がついている、施設は小学校の 1 階にあるという、岡崎市の感覚で言うと不思議な形態。もう一つは有名などろんこクラブ。保護者運営で、物件契約、近所学校挨拶、指導員雇用全般や手続き、建物修繕、イベント企画予約手配など全て保護者が行っている貴重な学童。現状の保護者の負担はかなり大きいようだが、保護者は納得した上で入所しているとのこと。指導員も子どもたち主体に全力を尽くしている感じが伝わってきた。他には　土地を購入し自分たちで施設を建てたクラブもあった。どこも定員に少しゆとりがあり、“6 年間入所が保証されます”と言い切れる言葉が一番心に響いた。あと春日井市の保育料の補助金が、岡崎市とかなり差があることも分かり、知っておいたほうが良いと思った。

テーマは“現状と次世代のための学童保育”。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたとは言い切れないが、5 類に移行したことにより、夏休みの過ごし方がどう変わってきたか、や　子どもの心の変化についても情報交換をした。どのクラブも“子どもたちのために何とかしたい”という思いで、指導員不足の問題を抱えつつ、ぎりぎりまで様子を見ての判断・工夫、努力をされていた。

第二部では、一人ひとりを大切にする学童保育について、講師からとても熱い内容の事例が聞けた。指導員の心のゆとりの必要性が感じられた。一人ひとりに向き合うこと＝一人ひとりを大切にすること。その子がどうしたいか、保護者なら、指導員なら何が出来るか？　難しいながらも、気持ちを汲み取る大切さを考えることが出来た。

子どもがほっとできる居場所、自分を出せる空間の学童保育所であるよう努力していきたい。